

学習内容報告書 フォーマット

学校名	長崎県立五島高等学校
授業者	小川 貴大・糸山 菊乃・松田 加保里・森下 史也・中山 義秀 他 計12名

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

地域探究型課題解決活動「バラモンプラン」

1-2. 学年

第2学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な探究の時間

1-4. 単元の概要

五島で暮らす高校生にとって、五島の「きれいな海」は非常に身近な存在である。彼らにとって美しい海は誇らしく、島内の経済を支える重要な観光資源の一つである。また、豊かな水産資源のほかに、洋上風力発電を行うなど、エネルギー分野でも広く関心を集めている。1年次では、観光業、水産業などの五島の海が地域にもたらす経済効果について学んできた。そこで、2年次では経済面だけでなく、理学・工学・水産学・環境科学など、将来どのように社会携わりたいかという視点で、地域探究型課題解決活動を行う。この地域探究型課題解決活動は、地域の大人と協働し、実験・調査などを行うことで、実現可能な提案を行うことを目指している。この研究活動を地域や行政に情報発信し、高校生の視点で海洋環境の改善の提案を行うことで、本研究活動に主体的に取り組ませることがねらいである。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

本単元では、高校生の視点で五島市が抱える課題について新しい提案を行うことで、郷土愛を育むことがねらいである。そこで、地域の抱える課題と研究テーマが密接に結びつくよう、五島市の「第2期 まち・ひと・しごと総合戦略ビジョン」、「広報ごとう」などを活用し、テーマ決めを行わせる。また、国際的な視点で課題について考えられるよう、国際目標17のSDGsの観点を取り入れる。このような地域探究型課題研究を行うことは、キャリア教育につながり、生徒自身のこれからの生き方について積極的に考え、主体的に学ぼうとする力を喚起すると考える。さらに、班活動による研究や、失敗から新たな方法を模索することで、リーダーシップや課題に対して試行錯誤する思考力・判断力・表現力の育成を目指す。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- ・郷土愛（伝統と文化を継承し、地域の課題を学ぶことで個性豊かな文化の創造を図る）
- ・思考力・判断力・表現力（問いの設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現などを通して、社会で生き抜くコミュニケーション力を育む）
- ・主体性・協働性（自分自身と他者や社会との関わりの中で学びに向かう力、人間性を育む）
- ・リーダーシップ（互いの良さを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようという態度を養う）

1-7. 単元の展開（全37時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スライド資料を用い、五島市の人口の推移や五島市の総合戦略に関する12のプロジェクトを学ぶ。</li> <li>・新聞を用い、地域活性のために県内・県外ではどのような取り組みがなされているかを知る。</li> <li>・自分が興味のあるカテゴリー（12のプロジェクト）やSDGsから「問い」を立てる。</li> </ul>	<p>&lt;教師の指導&gt;            コロナウイルス感染症対策のため、各クラスで実施した。スライド資料を用いた概要の説明を行った。新聞を用いた活動では、関心のある記事について、付箋に考えを書き、掲示板に貼らせた。</p> <p>&lt;主な評価&gt;            五島市の課題に沿った研究テーマを考えることができたか。</p> <p>&lt;使用教材&gt;            五島市 まち・ひと・しごと総合戦略ビジョン            探究ノート</p> <p>&lt;外部連携&gt;            五島市役所</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1回目の授業で立てた共通する「問い」から班を作り、「問い」を深めさせる。</li> <li>・探究ノートを利用し、目指すべき未来のためにどのような活動を行っていけばよいか、研究計画を立てさせる。</li> </ul>	<p>&lt;教師の指導&gt;            1回目の授業で立てた「問い」を掲示板に掲示し、あらかじめ考えを共有させておく。共通のテーマや類似の問いを立てたメンバーで、生徒たちに班を構成させた。ここでは、生徒の「問い」に合わせ、医療、海洋、エネルギーなどテーマに共通性がみられる班を一つの教室にまとめた。他の班との交流の中でも、さらに「問い」が深められるようにした。</p> <p>&lt;主な評価&gt;            ワークシートに沿って、「問い」を明確化できたか。</p> <p>&lt;使用教材&gt;            五島市 まち・ひと・しごと総合戦略ビジョン            探究ノート</p>
3 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料集めなど、自分たちが考えたことが実現可能かどうかの調査を行う。（アクション）</li> </ul>	<p>&lt;教師の指導&gt;            担当教員が、適宜声掛けを行う。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究資料のまとめ方講座を行い、相手を納得させるにはどのような情報が必要か、伝わりやすい発表資料の作成について学ぶ。</li> </ul>	<p>&lt;教師の指導&gt;            一斉講義形式で実施した。ここでは、自分たちの思い込みだけにとどまらないよう、必ず大学等の専門機関の研究について調べたり、新聞記事を活用したりするよう指示を行った。安易にネット検索で済ませないよう、図書館の利用を促した。</p> <p>&lt;主な評価&gt;            研究を行うにあたって、どのような手順やまとめ方が必要であるか理解できたか。</p>

6 7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間発表に向け、研究を進める。(アクション)</li> <li>・ポスター発表の準備を行う。</li> </ul>	<p>&lt;教師の指導&gt; 担当教員が、適宜声掛けを行う。</p>
8 9 10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回目中間発表会を実施。</li> <li>・発表会の運営は生徒たちが行う。</li> <li>・発表会後は、市役所の方を交え、研究計画の見直しを行う。</li> </ul>	<p>&lt;教師の指導&gt; 担当教員が、適宜声掛けを行う。</p> <p>&lt;主な評価&gt; 1学期の研究をまとめることができたか。 市役所の方の協力を得、研究計画の見直しを行うことができたか。</p> <p>&lt;使用教材&gt; 五島市 まち・ひと・しごと総合戦略ビジョン 探究ノート</p> <p>&lt;外部連携&gt; 五島市役所</p>
11 12 13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校外研修を実施し、より専門的な知識を深める。(協力先) 長崎県浄化槽協会、五島市立福江小学校、金子水産、五島市社会福祉協議会、特養只狩荘、かけはし木場株式会社アグリ・コーポレーション 島内繁殖農家、五島市役所ジオパーク推進班など</li> </ul>	<p>&lt;教師の指導&gt; 担当者を決め、引率を行う。</p> <p>&lt;主な評価&gt; 積極的に活動に参加できたか。</p> <p>&lt;使用教材&gt; 探究ノート</p> <p>&lt;外部連携&gt; 五島振興局</p>
14 ～ 17	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間発表に向け、研究を進める。(アクション)</li> <li>・ポスター発表の準備を行う。</li> </ul>	<p>&lt;教師の指導&gt; 担当教員が、適宜声掛けを行う。</p>
18 19	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回目中間発表会を実施。</li> <li>・発表会の運営は生徒たちが行う。</li> <li>・11月に実施するバラモンプラン発表会(MY PROGECT AWARD2020 選考会)の事前審査を兼ねる。</li> </ul>	<p>&lt;教師の指導&gt; 担当教員が、適宜声掛けを行う。</p> <p>&lt;主な評価&gt; これまでの研究をまとめることができたか。</p> <p>&lt;外部連携&gt; 五島市役所</p>
20 ～ 25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本発表に向け、研究を進める。(アクション)</li> <li>・ステージ発表およびポスター発表の準備を行う。</li> </ul>	<p>&lt;教師の指導&gt; 担当教員が、適宜声掛けを行う。</p>
26 ～ 29	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バラモンプラン発表会(MY PROGECT AWARD2020 選考会)を実施する。</li> <li>・発表会の運営も生徒たちが行う。</li> </ul>	<p>&lt;教師の指導&gt; 担当教員が、適宜声掛けを行う。</p> <p>&lt;主な評価&gt; これまでの研究をまとめることができたか。</p> <p>&lt;外部連携&gt; 長崎県教育庁 高校教育課、五島市教育委員会、五島振興局、NPO 法人カタリバ</p>

30 31	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの研究について、振り返りを行う。</li> <li>・感想文を書く。</li> <li>・キャリアパスポートを記入し、これまでの学習を記録する。</li> </ul>	<p>&lt;教師の指導&gt; 担当教員が、適宜声掛けを行う。</p> <p>&lt;主な評価&gt; これまでの研究を振り返ることができたか。</p> <p>&lt;使用教材&gt; ワークシート 振り返りシート (NPO 法人カタリバ (提出不可))</p> <p>&lt;外部連携&gt; NPO 法人カタリバ</p>
32 33 34	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの研究成果をまとめ、報告書を作成する。</li> </ul>	<p>&lt;教師の指導&gt; 担当教員が、適宜声掛けを行う。</p> <p>&lt;主な評価&gt; これまでの研究を振り返ることができたか。</p> <p>&lt;使用教材&gt; Word 文書で報告書を作成する。</p>
35 36	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの研究を踏まえ、将来どのように社会と関わっていきたいかを考えさせる。</li> <li>・生徒が希望する医療・福祉、教育、理・工、水産・農学・環境科学などの分野に分かれ、社会の変化を学ぶ。</li> <li>・該当するカテゴリーの新聞記事を選び、表現力や思考力を育むため、要約を行う。</li> </ul>	<p>&lt;教師の指導&gt; 担当教員が、適宜声掛けを行う。</p> <p>&lt;主な評価&gt; 関心がある分野について調べ学習を行い、新聞記事の要約ができたか。</p> <p>&lt;使用教材&gt; ワークシート ニホンミック「切り抜き速報」</p>
37	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時で作成した要約の読み合わせを行い、「他者に伝える」という観点で要約ができているか相互評価を行う。</li> <li>・要約は修正後、新聞記事と合わせ冊子化を行う。ここで作成した冊子は、次年度の探究活動やキャリア教育の資料として活用する。</li> </ul>	<p>&lt;教師の指導&gt; 担当教員が、適宜声掛けを行う。</p> <p>&lt;主な評価&gt; 関心がある分野について調べ学習を行い、新聞記事の要約ができたか。</p> <p>&lt;使用教材&gt; ワークシート ニホンミック「切り抜き速報」</p>

## 2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

### 2-1. 単元における位置づけ

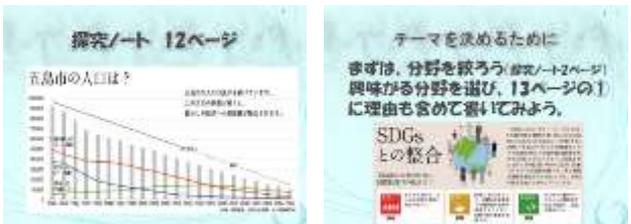
単元  時間中の  時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

### 2-2. 本時の目標

「問い」を立てる。  
「問い」を深める。

### 2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1. スライド資料を用い、五島市の人口の推移や五島市の総合戦略に関する 1 2 のプロジェクトを学ぶ。</p> <p>2. 廊下に掲示している、地域活性化のための県内外の取り組みに関する新聞を見て、考えてことを付箋に書いて貼る。</p> <p>3. 自分の興味があるカテゴリー（1 2 のプロジェクト）や SDGs から「問い」を立てる。（ワークシートに記入）</p> <p>4. 3 で作成したワークシートは廊下に掲示し、だれでも考えを共有できるようにする。この掲示されたワークシートを見て、共通する「問い」を立てた人と班を構成する。</p> <p>5. 班員と協力し、五島市の「第 2 期 まち・ひと・しごと総合戦略ビジョン」を参考に、探究ノートの「目指すべき未来のためにどのような活動を行っていけばよいか」を考え、研究計画を立てる。</p>	<p>1～3. スライド資料を用いて概要の説明を行う。新聞を利用した活動では、各クラス順番を決め、時間差で行う。</p>  <p>4. 班構成は、生徒自身によって行わせる。「問い」にそったメンバーが見つかり、申込書に班員とテーマを記入し、担当教員に提出する。</p> <p>5. 水産・農業、エネルギー、医療・福祉など似通ったテーマの班を同一の教室に配置し、ほかの班の研究が互いの刺激になるよう配慮する。また、担当教員は、それぞれの分野に比較的明るい教員を配置する。</p> <p>例) 水産・農業：生物の教員 エネルギー：数学、化学の教員 など</p> <p>&lt;主な評価&gt; 五島市の課題に沿った研究テーマを考えることができたか。 ワークシートに沿って、「問い」を明確化できたか。</p>

### 3. 今回の活動の自己評価



- ・生徒たちは非常に主体的に活動をしていた。
- ・新聞を用いた活動では、付箋に細かく各々の意見を記していた。この新聞記事の選定は、図書館担当の教員の協力を得、生徒たちが普段興味を持って読もうとする島内の記事以外にも多く選んでもらった。その結果、より幅広い内容を扱うことができた。
- ・4の活動で、「ワークシートは廊下に掲示し、だれでも考えを共有できる」ようにしたことで、自然と探究活動の「問い」について互いに意見を交わす機会が増えた。意見を共有することで、率先して班を構成し、自然とリーダーシップや協調性が育まれたため、主体的に活動しようという意欲が生まれたと考える。
- ・新聞の掲示や「問い」の共有のために「バラモン掲示板」を設置したことで、年間を通して現在の活動内容を常に発信することができた。生徒たちもよく立ち止まって、ほかの班の提案や取り組みを見ていた。このことから、分野の枠を超えて刺激し合い、探究活動がより深まるきっかけになったと考える。

### 4. 今後の課題

- ・SDGsの観点については、もう少し強調した方が良かった。  
1年次に、一度説明を行っていたが、生徒にとってはまだまだ馴染みのない言葉であった。そこで、この総合的な探究の時間「バラモンプラン」だけでなく、※各教科に協力を依頼し、SDGsと関連した授業を取り入れるなど、改良すべきであると考え。

※ 長崎県立長崎東高等学校の実践例を参考

例) 国語「羅生門」 : SDGs 2 飢餓 など

### 5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- ・人口の推移に関する統計資料を準備すること。
- ・行政に協力を求め、広報誌や施策をまとめた資料など、各教室に必要部数の配置を行うこと。
- ・新聞を使った活動では、事前に地域活性に関する記事をあらかじめ選んでおく必要がある。  
短期間では十分な数をそろえることは難しいので、2～3か月前から徐々に記事を集めておく。
- ・人数分（1人につき5枚）の付箋を用意しておく。  
年度当初の活動になるので、前年度の計画を立てる時点で購入しておくといよい。

## 6. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

### 6-1. 単元における位置づけ

単元  時間中の  時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

### 6-2. 本時の目標

「問い」を解決するため、「アクション」を起こす。

### 6-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
1. 「問い」を解決するため、自分たちで調べ学習や実験・調査を行い、「アクション」を行う。	1. 担当教員が、適宜声掛けを行う。 研究の進捗状況が班によって差が大きくなってしまふことが予測されたため、担当教員によって計画の見直しや妥当性を繰り返し指導してもらふ。また、意欲的に研究に取り組みさせるため、夏休みなどの長期休みを挟む際には、定期的に「バラモン面談」を実施した。  <主な評価> 課題解決に向けて、アクションを起こすことができたか。 研究計画を常に見直し、試行錯誤を繰り返し、研究に意欲的に取り組むことができたか。

## 7. 今回の活動の自己評価



- ・研究テーマを水質・環境、医療・福祉、エネルギーなどの分野に分けたことで、授業の学び（例：化学「電池と電気分解」、物理：「運動エネルギーを利用した発電」など）が生かされた研究が増えた。また、アンケートや地域の特産物（魚など）を生かした商品開発を試みるなど、地域と協同し、研究を進めようという班が多くみられた。その結果、自己完結型から社会と繋がる研究へと発展につながったと考える。
- ・主体的な取り組みが多く、いくつもの研究が様々なコンテストにチャレンジすることとなった。校内発表だけでなく、県外の高校生との意見交換がさらに研究を深める良いきっかけになった。

## 8. 今後の課題

- ・全39プロジェクトのうち、多くの班が主体的に研究に取り組むことができたが、一部の班は教員側の関りが不可欠であった。生徒の状況に合わせ、声掛けや研究の見直しを支援していかなければならない。
- ・意欲的に研究に取り組ませるため、夏休みなどの長期休みを挟む際に行った「バラモン面談」は、生徒や教員の意識付けに大きく役に立ったと感じる。しかし、働き方改革のなか、授業時間外での面談は教員の負担感はどうしても大きなものになる。担当教員の興味に即した形で担当割を決めたが、どうしても指導に差が生じてしまうことが課題であった。
- ・本報告書の14で述べる校外研修について、当初は5月中旬に実施の予定であった。しかし、コロナウイルスの影響で実施を7月に延期することとなった。やはり、現状を知るための企業訪問は、テーマ決めの直後に行うべきであった。その結果、生徒の立てた「問い」と現場の「課題」に乖離が生じてしまった。しかし、この活動を通して改めて研究を見直すきっかけにすることができた。

## 9. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- ・研究の意欲を高める「面談」を導入すること。  
ただし、教員の負担感も大きくなるので、昼休みや放課後だけでなく、探究の時間など、面談を行う時間帯に幅を持たせる必要がある。
- ・外部機関との連携やアンケートに協力を依頼する場合は、かならず担当教員に相談を行うこと。  
主体的な活動は応援すべきであるが、企業や小・中学校に活動に協力してもらう際には、学校からの依頼文書等が必要であるため、報告・連絡・相談を徹底すべきである。

## 10. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

### 10-1. 単元における位置づけ

単元  時間中の  時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

### 10-2. 本時の目標

研究を行った成果を発表する。

アドバイスを受けることで、研究に対する新しい切り口を考える。

### 10-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1. 五島市役所からアドバイザー（23名）を招き、第1回中間発表会（7月）を実施する。</p> <p>2. 第1回中間発表のあとは、アドバイザーを交え、意見交換を行うことで、今後の研究計画の見直しを行う。</p> <p>3. 五島市役所からアドバイザー（23名）を招き、第2回中間発表会（10月）を実施する。ここでは、本発表会のステージ発表班の選考を兼ね、五島市役所の方にも審査員として参加をお願いする。 代表班6班はステージ発表を、ほか33班はポスター発表を行う。</p> <p>4. 長崎県教育庁 高校教育課、五島振興局、五島市教育委員会から審査員を招き、「バラモンプラン発表会」を開催する。これは、MY PROJECT AWARD2020 九州・沖縄 Summit 予選会を兼ね、ステージ発表を行う6班のうち1つが出場となる。</p> <p>いずれの発表会も、受付をはじめ、司会など、当日の運営のすべてを生徒によって行う。</p>	<p>1. 事前にバラモンボランティアを募集し、当日の司会や受付、ポスター作製、ウェルカムボードの作成などを分担し、こまめに係打ち合わせを行わせる。</p> <div data-bbox="970 1055 1318 1263" data-label="Image"> </div> <p>&lt;主な評価&gt; 研究成果をまとめ、発表することができたか。 アドバイスを受け、研究計画の見直しや改善を繰り返すことができたか。</p>

## 11. 今回の活動の自己評価



・発表会を受けて、以下のような意見が寄せられた。（本発表観覧者：41名）

以下のことから、生徒たちが複数回の発表や、会の運営に携わることで、主体性や表現力・コミュニケーション力の向上につながったと考えられる。

<発表会の目的>	はい	いいえ
1. 生徒たちの主体性	100%	0%
2. 表現力とコミュニケーション力の向上	100%	0%

（自由記述）

- 1回目から参加させてもらったが、今回はどの研究もよくまとまっていた。
- 以前から興味あったが、年々学生たちの取り組み充実度は上がっているように感じた。
- 郷土愛にもつながるいい取り組みだと思う。
- 研究期間、時間が短い中で問題点やアイデアについてよく考え、検証出来ていてよかった。
- 子どもたちの発想を大事にしたい。自分が興味あるものを追求し、班で協力しながら進めているところが良い。
- これまでの過程を見てきた中で、しっかり形になっていたのだから、自分たちで考え、まとめた姿勢が見て取れた。
- すばらしかった。2年生の活動もここで終わらず、続けてほしい。
- 生徒からの意見がしっかり出ていてよかった。
- 全体的によく調べており、他の意見を踏まえて改善するなど実践的な取り組みがみられた。さらに深く探究し、より大きな成果が得られることを期待。
- 地域にとってもこの学習は大きな意味があり、可能性があるものだと感じる。
- 調査し、そこから課題を見つけて課題解決の方法を見つけていくというプロセスは、生徒にとっても貴重だと感じる。
- ▲ 「形」ある成果を残そうという傾向にあり、五島の課題をどうしたら解決できるのか、研究の中でもっと考える必要がある。
- ▲ アドバイザーとして参加したが、生徒たちが内容を考えている時間（中間発表①と②の間など）にお邪魔できれば、よりアドバイスもしやすかった。
- ▲ 今後も継続し、長大、長県大などとも連携してほしい。
- ▲ 全体的にバラモンプランに使える時間が短いのではないかと。「反省・振り返り」を活かした更なる活動ができていない。
- ▲ それぞれが実験や校外活動に取り組んでいたが、あくまで基本的なものである。むしろ、「今後取り組みたい」と書いている内容の方が独創性があり、面白い。発表会でも、そういった反省を踏まえて一歩進んだチャレンジが聞きたい。
- ▲ テーマに引っ張られ、中身が薄いもの、結果とテーマにつながりがないものも見られたので、もっと調べたり、現場を見たりしたうえで中身の作り込みをすべき。
- ▲ 評価者の中にもっと、地域の代表的な立場の方を入れたほうがより効果的ではないか。

<ステージ発表>	はい	いいえ			
1. 発表の内容・仕方は適切か	98%	2%			
2. 五島の課題を踏まえたものか	100%	0%			
3. 試行錯誤の成果がまとめられたものか	100%	0%			
(自由記述)					
○ 高校生のプレゼンテーションの高さを感じた。					
○ 審査員の質問は鋭いものがありましたが、生徒がしっかり答えている姿を見て、主体的に研究してきたからこそできるのだと感心した。					
○ ステージ発表のグループでは、評価者からの質問に対して堂々とビジョンを回答する姿を見て大変頼もしく感じた。					
<ポスター発表>	はい	いいえ			
1. 発表の内容・仕方は適切か	93%	7%			
2. 五島の課題を踏まえたものか	100%	0%			
3. 試行錯誤の成果がまとめられたものか	100%	0%			
(自由記述)					
▲ 発表時にはもう少しはっきり、ゆっくり話した方がより伝わりやすい。(特にポスターセッション)					
▲ ポスターのフォントは、情報量も大切だが、もう少し大きくしてほしい。					
▲ ポスター発表では、一斉に生徒が話し出すため、全く声が聞こえなかった。					
▲ ポスター発表の声が小さく、周囲が騒々しくて聞きずらかった。コロナ対策もあり大声が出しづらいと思うので、拡声器などがあるとよい。					
▲ ポスター発表の時間が短い。					
<運営>	はい	いいえ			
1. 生徒中心の運営方法	100%	0%			
2. 今後の継続	100%	0%			
(自由記述)その他、提案など					
<input type="checkbox"/> アイデアが素晴らしい。このアイデアを活用して、発表で終わるのではなく行政や地域へつなげてほしい。					
<input type="checkbox"/> 可能なら、来賓用に、1年生時の取り組み、2年生後半の予定、3年生での予定などが具体的にわかる計画表などがあればありがたい。					
<input type="checkbox"/> グループ内でよく検討されていたが、今後は同じ問題意識を共有するグループ同士で協働できるなど、もっと大きく発展するよう祈っています。					
<input type="checkbox"/> こういった発表会を中学校や高校を超えて実施したり、プロジェクトや取り組みをコラボできたらもっとおもしろそうだと思います。					

## 12. 今後の課題

- ・これまで、発表会の司会は教員によって行われていたが、本年度から生徒の主体性を高めるため、運営を生徒の手にゆだねることにした。時間の都合上、司会原稿は教員のほうで用意を行ったが、将来的には生徒の手によって行わせたい。
- ・ポスター発表の時間を充実させるための工夫が必要である。(20分ほど時間を捻出する必要がある)

## 13. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- ・事前の係打ち合わせを密に行う必要がある。

#### 14. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

##### 14-1. 単元における位置づけ

単元  時間中の  時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

##### 14-2. 本時の目標

企業訪問や体験講座を通して、地域が抱えている課題や現状について学ぶ。

##### 14-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1. 五島振興局に協力いただき、島内の企業訪問や、島外の企業を招き、出前講座を行う。</p> <p>（協力先） 長崎県浄化槽協会 五島市立福江小学校 金子水産 五島市社会福祉協議会 特養只狩荘 かけはし木場 株式会社アグリ・コーポレーション 島内繁殖農家 五島市役所ジオパーク推進班など</p>	<p>1. 担当者を決め、引率を行う。</p> <p>&lt;主な評価&gt; 積極的に活動に参加できたか。</p>

## 15. 今回の活動の自己評価



・コロナウイルス感染症拡大により、当初は5月中旬に予定していた活動が7月に延期することになってしまった。このことで、第1回中間発表の内容がやや抽象的になってしまい、実現可能性から少し離れてしまった。この体験活動で軌道修正を行うことができたが、当初の計画通り、年度5月の時点で校外研修を実施できたほうが、年間を通してより充実した研究になったと考えられる。時期としては非常に残念であったが、結果として全ての研究活動が具体化し、現実性のある研究へ引き上げることができた。

## 16. 今後の課題

・企業訪問先の選定は五島振興局の協力によりスムーズに行うことができたが、独自で行う場合は準備にかなり時間がかかる。

・島内の移動や船を利用したため、交通費がかかる。補助金等を有効に活用していかなければ、校外研修の持続は難しい。

## 17. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

・企業の選定、協力をどうするかを前もって教員間で打ち合わせを行う。

・行政の力を借りることができるか。

## 18. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

### 18-1. 単元における位置づけ

単元  時間中の  時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

### 18-2. 本時の目標

一年間の研究を振り返り、報告書を作成する。

### 18-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1. 本発表を受けて、NPO 法人カタリバの HP 上で発表会を振り返り、アンケートに入力する。</p> <p>2. ワークシート（NPO 法人カタリバ（提出不可））を用い、これまでの研究を振り返る。</p> <p>3. 1、2 の活動を踏まえ、1 年間の活動について感想文を書く。教員の添削後、清書を行う。</p> <p>4. ワードを用いて、これまでの研究の報告書を作成する。（A4 2 枚）</p> <p>5. 報告書を冊子にし、本年度の研究にお世話になった地域の方々に感想文と合わせて送付し、高校生の視点で地域の課題改善に対する取り組みについて情報発信を行う。</p>	<p>1～3. HP とワークシートをもちいて、これまでの探究活動の振り返りを行わせる。ワークシートは班で相談しながら記入させてよいが、活動が止まっている班には声掛けを行う。</p> <p>4. パソコンの操作に慣れていない生徒もいるため、必要に応じて声掛けを行う。完成した原稿は担当教員が確認し、内容に不備があれば修正を行わせる。</p> <p>&lt;主な評価方法&gt; これまでの研究を振り返ることができたか。</p>

## 19. 今回の活動の自己評価

- ・振り返りシート（NPO 法人カタリバ（提出不可））は、研究開始から現在までの経過をグラフ化し、躓いたこと、うまくいったことなどを時系列とともに整理させるものであった。グラフ化することで、これまでの研究に取り組んだ過程を可視化することができ、非常に面白いものであった。生徒たちも新しい振り返り方法に面白がっており、これまでの研究活動を楽しそうに話しながら振り返っていた。
- ・報告書は書式やフォントを決めたことで、まとめやすくすることができた。また、最終発表会ではスライドやポスターをデジタルで作成させたことで、報告書へ活用しやすいという利点があった。生徒は集中して報告書作成に取り組んでいた。
- ・完成した報告書は生徒の感想文とともに、本研究活動にご協力いただいた五島市役所、五島振興局、長崎県教育庁 高校教育課、五島市教育委員会など島内の企業に送付した。いずれも好評であった。
- ・この活動で作成した振り返りシートや感想文は、次年度の探究活動やキャリア教育でも活用を行う。

## 20. 今後の課題

- ・いままでは、「感想」を書かせることだけが多かったが、NPO 法人カタリバ（提出不可）の振り返りシートが非常に参考になった。このことから、これまでの研究を「文章化」するまえに、個人の成長過程を記録できるような、振り返りの方法を模索しなければならない。
- ・報告書の作成には、教員の力が不可欠である。探究活動に対する負担感が大きくなってしまっているので、担当教員と連携を図り、特定の教員に負担がかからないよう留意しなければならない。

## 21. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- ・本研究は、NPO 法人カタリバの探究プログラムに参加したため、ワークシート等の資料があった。独自で行う場合は、ワークシートの作成やアンケートを事前に用意する必要がある。

## 22. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

### 22-1. 単元における位置づけ

単元  時間中の  時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

### 22-2. 本時の目標

新聞記事の要約を行うことで、社会の変化や現状について学ぶ。  
将来、どのように社会に携わりたいかという職業観の育成を図る。

### 22-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
1. これまでの研究を踏まえ、将来どのように社会と関わっていきたいかを考えさせる。そこで、生徒が希望する医療・福祉、教育、理・工、水産・農学・環境科学の中から関心がある学問分野を一つ選び、グループ分けを行う。	1. 事前に各クラスでアンケートを実施し、クラス分けを行った。
2. 1の調査に沿って班を分け、該当するカテゴリーの新聞記事を選び、表現力や思考力を育むため、要約を行う。	2～3. 活動がうまく進んでいない班には声掛けを行った。
3. 2で作成した要約の読み合わせを行い、「他者に伝える」という観点で要約ができているか相互評価を行う。	
4. 要約は修正後、新聞記事と合わせ冊子化を行う。ここで作成した冊子は、次年度の探究活動やキャリア教育の資料として活用する。	4. 今後、春休みを利用して、作成を行う。

### 23. 今回の活動の自己評価



- ・生徒たちは非常に熱心に新聞を見入っていた。これまでの探究活動を行ったことで、より将来の目標が具体化していると感じる。
- ・要約を行うことで、社会情勢を正確に読み解こうとする姿勢が見られた。
- ・複数の班が様々な新聞記事を比較することで、多種多様な社会の課題について考えさせるきっかけになった。

### 24. 今後の課題

- ・本年度作成した資料を基に、次年度ではグループ討議を行い、「正確に読む」だけでなく、これらの課題を「どのように考えたか」や、解決のために「どのような取り組みができるか」といった、これまで培った課題解決能力を生かせる活動を継続していく。

### 25. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- ・学校図書館と連携をし、必要な資料の貸し出しを求めること

※実施した單元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書\_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書\_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。